



健やか豆知識

第40回



Q. 蚊に刺されたときの対処法で間違っているのは?

- I ぬり薬をぬる
- II 冷やす
- III 爪で強く十字をつける

高田製薬は、患者さんや医療関係者の声に耳を傾け、医療ニーズに合った医薬品の開発と情報提供で、健康な社会づくりに貢献します。

— 人びとの健康を願って —
高田製薬株式会社

感染症の運び屋「蚊」から身を守りましょう

夏になると蚊に刺される機会が多くなりますね。蚊は刺されてかゆくなるだけでなく「感染症の運び屋」とも呼ばれ、感染症を広げる可能性があるため、蚊をできるだけ発生させず、刺されないようにすることが大切です。

蚊は水たまりを産卵場所として発生するため、家の周りの空きビンや缶、ペットボトル、植木鉢の皿やバケツ、ジョウロなどに水が溜まっていないかチェックしましょう。外出時は虫よけスプレーを使用し、長袖、長ズボンなどを着用して肌の露出を避けましょう。虫よけスプレーを使用する際はまんべんなく塗り伸ばし、汗で落ちたら何度でも塗り直しをしましょう。

蚊に刺されると、大人の場合は刺された直後にブクッと小さな発疹ができ、1～2時間がかゆみがおさまること(即時型反応)が多いですが、2～6歳の幼児の場合は刺された直後は無症状ですが、1～2日後に赤いしこりができてかゆくなり、大きく腫れたり水疱ができたりすること(遅延型反応)があります。蚊に刺されたら保冷剤や冷水などで腫れている部分を冷やし、かゆみ止めの薬を塗りましょう。症状がひどい場合はステロイドホルモン入りのぬり薬がよいでしょう。ステロイドホルモンは短期間の使用であれば心配ありません。

子どもの場合は「かきむしり」に注意が必要です。刺されたところをかきむしると、そこからばい菌が入り感染し、「とびひ(伝染性膿痂疹)」という皮膚の病気になることがありますので、予防対策として絆創膏やかゆみ止めの薬が入ったパッチを貼るとよいでしょう。「とびひ」になると抗菌薬のぬり薬や飲み薬による治療が必要となります。また、野外レジャーに行った場合は刺された虫の判断が難しいため、刺された部位が大きく腫れたり、水疱ができたりなど、強い炎症がみられる場合は皮膚科を受診してください。日頃から子どもが虫に刺されないように注意し、体の腫れや赤みなどをチェックしてあげられるとよいですね。

監修 夏秋 優 兵庫医科大学 皮膚科学 教授

さらに詳しい情報は
ホームページで!



< 正解 III 爪で強く十字をつける >

クイズの解説

できるだけ「蚊を発生させない」、「蚊にさされない」ように予防しましょう!

日本での蚊は、主に昼間に行動するヒトスジシマカと夜に行動するアカイエカが代表的です。蚊のほとんどの種類が吸血性で、ジカ熱、デング熱などの感染症となる病原体を蚊が媒介して、感染を広げていきます。蚊は実はとても怖い生き物なのです。

大人が蚊に刺されると、直後にかゆみと赤みができること(即時型反応)が多いですが、子どもの場合は刺されてから1～2日後に赤いしこりができてかゆくなること(遅延型反応)が多く、特に2～6歳の幼児の場合は、大きく腫れて水疱を伴うなど、大人と症状が異なります。蚊に刺されたら「かかないこと」が大切ですが、子どもでも大人でも、非常に難しいことです。まずは保冷剤や冷水などで腫れている部分を冷やし、その後にかゆみ止めの薬を塗りましょう。腫れが大きいなど症状がひどい場合は、ステロイドホルモン入りのぬり薬を使用しましょう。腫れ、かゆみが引くまでの数日間の使用であれば、副作用は心配ありません。蚊に刺された箇所をかきむしったり、爪で強く十字をつけたりすると皮膚を傷つけてしまい、その傷からばい菌が入り感染して、「とびひ(伝染性膿痂疹)」という病気になることがあります。かきむしらないように絆創膏やかゆみ止めの薬が入ったパッチを貼るなどして予防してあげてください。

夏になると屋外レジャー等で、蚊以外の虫にも刺されることがあります。刺された部位が大きく腫れたり、水疱ができたりなど、強い炎症がみられる場合は皮膚科を受診してください。日頃から子どもが虫に刺されないように注意して、子どもの肌を守ってあげられるとよいですね。

【子どもに虫よけ剤を使用する際の注意点】

- ・子どもや赤ちゃんに虫除け剤を使用する場合は、配合されている成分と濃度に注意を払う必要があります。成分表を確認して、使用方法、年齢や使用回数の制限など、使用上の注意を守って正しく使用しましょう。
- ・舐めてしまう可能性があるため、子どもの手や顔には塗らないようにしましょう。また、怪我のある部位は、しみたり、傷口から吸収されたりする場合がありますので、塗らないようにしましょう。大人が子どもに塗ってあげられるとよいですね。
- ・帰宅後など、虫に接触しなくなったら速やかに石鹸などを使い、洗い落としましょう。

「蚊を発生させない」ための予防策

- 家回りの水たまり除去・清掃
 - ・屋外に放置された空きビン・缶・ペットボトル
 - ・植木鉢の皿・バケツ・ジョウロ など
 - ・雨よけのシートのくぼみ
- 蚊が潜む場所をつくらない
 - ・雑草や樹木は定期的に刈り取り、風の通りをよくする

「蚊に刺されない」ための予防策

- 肌の露出を極力少なくしましょう
 - ・蚊や虫の多い場所では長袖、長ズボンを着用する
- 虫よけスプレー(虫よけ剤)を活用する
 - ・服や帽子の上からもスプレーをかける
 - ・「ぬりのぼし」と「ぬり直し」を行う
- 蚊取り線香や蚊取りエアゾールを活用する
 - ・室内の蚊を退治しておく
- 網戸を締めて蚊を室内に入れない